湖月抄

さわ

四十八

帝國圖書館藏

早蕨　宇治四

細　巻名は哥より付たる名也　源氏物語の中に

はつかなる　蕨の四葉　あげまきの　ほのかに見しを　音

所　此哥は　はつかなる　蕨の四葉　あげまきの　ほのかに見しを　人の　ゆくへ　ゆかねば

ゆくへ　物思ふ　ものを　ひつくし　かりそ　紀こまいれて　みあ

さりのうき　君　よりて　あやしの　哥　とつ　これを　つゆを

ぬれぬ　袖　わかれ　ひとり

やどりわすれぬ　細　目　此　哥

やどりわすれぬ　ひとりとは　花　咲

ぬ　中　哥の　ひとり　哥　八　哥

の　哥　の　哥　年　婦

君　よ　ぬれ　袖　月　乃

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

しよ　哥　八　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ

ぬ　哥　細　哥　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

世よりこのかた
細 世間の公事をとりさばき
紙をあらそふ事
どもをあらためよ叶ひがたき
公事行はしむるもひる
しるべきなり 三 生死のろ
ぎりあるものを公事をも
さばくなり

とあけくれこそ
よとまるべきさ程ぐるしきあるべよ
れどもあるれぬとあさましわざのすよ
孟子の引用文の引用
つとに年あくまりているよ
きこんにいのりいくあるくつくまつり
作り今いひし 中庸の引用 而のれこそとろんやとろくで
河歌 薇 毛詩
稱んじくこそ
土佐日記の引用
ぬくしくかりさこよられてこれなるこハ
繪
べのこのこそ
細 孟子の引用 孟子の引用
くいしあり
こそこのこのこ
こそこのこのこ
こそこのこのこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

盃梅の香も葉の白ひ
もゝ梅をわて葉のま
ゝ衿の結るゝ

[illegible]人の 細 白の奇こ変
字こうゝを[illegible]上人
文法を作りまゝど
宗治よ西行こ今に
紙ぐるこ中君のこの
こゝ[illegible]こ盃
梅花こ葉の[illegible]
[illegible]こ三色八白梅
色に白八赤開の花と云り
[illegible]人よ 細 [illegible]こ
つけ[illegible]を付て[illegible]
[illegible]
[illegible]こ盃葉の文人
[illegible]こ[illegible]
[illegible]人の[illegible]神と[illegible]
[illegible]

[illegible]こ[illegible]
[illegible]こ[illegible]
[illegible]こ[illegible]

世よしあり　細うるはしき者よ実
けり　事なきさうとうとり
うるふく
いくさうとうもいとさのこえ
あくさうりん　孟蓋と蛇
君と寅うるうるさるはい
あしと鬱ひまふく
さうるふく　細鬱結
るふくふ拙りんえて
あくさうひまふく
るけりきんの中も
細白蓋のうりのんども
うく推こうてのうふく
表ともはるし　仰ふく
ふつうとびひきなけ
るとのまふく
けよりうあまうまでもひ
ふうびりふこと
仰上細よりよあまうを
ともふ謙よりふうこうん
と恐りて矢ア々のえうり
まうりまふとりひしよあ
ひをくけふとりう

出物語をえうるけやをと給ふで歌まいさ
うみけぬ世よしあしありうこうりをう中
のひつびをいぐさうとをいとさのこいあ
らぐうりうんとのうりうりぐよふひるし
給ぞ　苔の地　細白のれんるうひこ
つまるぐふもりのようろえまてるげう
しさうろうのうちをあうふびそうう
つんるぐさめまこ義をもさまし海ぐよ
うふひ給ゆうふ海のおうしうよもううれ
なりてげようろうよあまうまでいひを
げるうくふれむどうふつうりゆのく給
幾蓋の胸中の腎紐の数まうふこ
ぞうよるくひねのひまあくうふうし給

細白蓋の中義をもひるうるうるこうのうふく
やまうめんうくうふうふうてんとすう
行のうふうをとうふうひうふうを給をいとう
まうふひ給
のあやまうふとるんやうまうふうあうあむ
うのるぐうりをまうこ義あんうふうも作う
ねいはかうふうよいはぐよりけても心せき
うるべうさんとるんをまうふをりひんるいわ
はかりめうふうふうてのうふうんとるるひ
まうふそとゆうり給うんをうそとをもそう
いうりうふうふまうでいそせのりりのよ
こるめうふうりうしまのふいのうふうりう
細蓋の中の内紅絨
うふうのうふうはかうふうなぐうあぐうふうふ

わひをくふうふうの
細うりうの媒介せーと
とうれんふう太君をうう
のあやまうのやうふう
ひあひーふふ

細白蓋の中義をもひるうるうるこうのうふく
いくせのりりれ　細義の
義二絨義ふうふうふうを
ふうふうんでよいくせの
りりのまぐふうふうを
んぐふるで変ふうふの
きしふふうれぐうぐう
いあうまぐ行をえうふを

それをぞいのしまうら
花いとせのりれるぞこ多
のすちくちくちる古今
八行くねどもをとりて
いくぐ立くいくそとみ
ちしの今ちくこ立拾遺
こやいとせのりれよふ
こりめくちくと人つ
くるぬとちんいとせ
の森といく女の森とう
ろ源氏はこちあくとろく
つるようくのこ物りく

孟中君と我拍よせんとも
ふんのやまぬとちひを
て雅ふあみもまろくん
とて蓋のちひるれろを
まくくんうくろくこて
んりくハ　細蓋の名拍給
くてハ雅くくくく　孟中
君の白(ぶり)紙のすみぞ紙
すて投足もう拍ふあじ
と蓋のんまくけしすを
ひすくを　細中君のくを
つきあくよ給せん源氏

孟蓋の中君と我拍よせん拍をと
みもげよさてこそうやうみもありくへさ
てぐうりうれとうやちくこやうく海さ
をゆけどいまはうひるさ拍ゆぐみうう
うのこやそぐあうまぐれくうもこそ出く
きくうあみもあぐくおこうまくくくと
ちくハ　孟中君の白(ぶり)まくくと　三二条院(中君)
ちくふ
ちくくくこてもおくすまくんまつけても海
くくくよちひくくくくくむくこぶみくれくハ
とぶをばれくくくのくぐをんまくけを
さを給ぐくこみをくくくくハくくはなぐ
くくめて人ぐいくくくゆさぐりよいそぐさん
くれどいまはくくくくくくくくくくくくくん
とぐくくくくくくくくくくくくくくくくくん

細宗給の名

孟中君の白(ぶり)まくくと　三二条院(中君)
ちくふ

孟中君の白(ぶり)

細中君の名

孟中君の白(ぶり)

細宗給の名

のすがるれど最の素とかう面白
とのことしまく　細　そこしまと仕古いとそう浦ケの主さよみくこう中君ケ殺ゆく
なれうへ人うれどりくこうりのえいやけくあくぬちよゆり浦とうく　晦日
白文の末とけまるぞこしものを
みくいうよくしうれくひくこうくれなう
こくもこくるどこうげよつきくこひ
こうよあくこう浦けぶくをくぐりあ
ふくこうるれいあぐもてよくこそこくもあくこ
仰解除の山稜川の郷よ歳こくこ元　細中君のうしあぐを浦
きくぐぞすう地やひくこそこういこをくぐり
しくぶこうこくこくこくこくこくこくこくこ
君の服衣をかくこそ
つまみくこのしびのこうくとおくそめんと
こうこうよいゆげしのまへどこすぐよくこくゆ
こをるくこわぐるれいあくぞれしくこく
うぐうすう本納云あこうれ車山前の人で
山母のくこうに姉
仕
細　大君十二月よりせる
ゆ中日の服ゐれハ二
月よりやさゐこう
地や一所　細　母上とくこ又
給いくこうくこくく姫君を
母のくこくよりひゐくこ
くこうり三中君の誕生の
時母小方いうせゐこう
くこうくこ必くもゐくこわくこうれい
姫君の服ゐくぐりゐて母の
服のどくくすくこくこくこ
はどくこ三服りあれいぐふぬぎ
特別為氏ゐどゐて去り
れ車ごぜん　細山稜より河
色より出給ひ人ゐくこうこう
仰除服のこくこくより川辺より

出給ふ山車前駆こく
蓋こうり立給へ
こくこせ　細　女よりこまりの
為ゐゐこくこうこうあ
ゐこくこ愚按こくこせこ陰
陽博士ゆこうこ紀山こ
らくのこあ山ぜんよこく
て陰陽仰どこくまり
られこくこ　三日義
こくこうや　細　一説中君
の方こくこ如何見こくゐ
ゐの方のこうゐこく可拙今日
の中君の山稜をゐひやう
てゐ君のこくこを吹こう今
日とゐのこよこくや中君の
除服ゐも嫁ゐこうこく
仰ゐ文さこうこうやこは
山ゐのこうこうどこくこ
こくこうこ見ゐゐこうこ
こくこ服衣のこくこくここ
ゐこ見のひもこくこは除服
のゐれ
けよこう　細　けよこは河
こうゐこくゐまの他よ去

こくこせるどゐれこう
細盃　蓋
こくれやここけここくこくこ
こくこうりをこくこうげよこう
こくこくこくこくこくこくこくこ
こくこくこくこくこくこくこくこ
どゐこうゐ方ゐこくこくこくこ
ゐこくこ　細　こくこの金比よをを運ひまここ
ゐこくこくこくこくこくこくこ
こくこくこくこくこくこくこくこ
こくこくこくこくこくこくこくこ
こく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つまくの　細　大茶の小花とりてあそびかう一枝をもちいる
ふくよりもうしろまへ　仰　中茶の茶の茶のうとひあそびてはかりをもちいる
なるべしさいるこうつるれんこうつるの何
ろろ人と　細　大茶のことをとりのおつまとにつけく一入をひかりろし一茶中茶の公山
黒をおろくろうの茶あれとを不用也おろろ人もあしにおちうつくの中茶の茶人海
こまよんもはうちやうなりとうべそれ梅の白ひは一の大茶のうとをとうちうも
神　仰　細　中茶をとり
うしのうとをとうくうと
あろうよ品と数人の結び
茶を根のべ梅うち
べうとと　暁　中茶と坪
茶のうとうとうの花瓶
うれうとい茶の一茶の公
もわうもやはんん杯よ
似合うれうくねごめて
茶をねるうううとうと
三中茶のうとうり根べ
めん根のべくの白茶の一茶の
うもをうと　細　茶の一茶の
うもうよこうりうと
ろううり
この茶のうりのひげうれ
三三字治茶の茶の茶よ
みうとうの人うべく

茶　細　梅うれうとうとねめうりひうそねこ　細
めうりうやうやうとうろ。　細　茶の茶の茶
海うくのべうひうくうとうとうとあうべ。
茶の白
ものうるうやううとうんうよべうとうさ
うとうせうとうべうとうべ　中茶の公茶よ
ものうとうりうよあうべうとうとうべ人べに
の結うくこの茶のうりうよのひげうれ茶
ねべうべうはうとううとうべうれべこのうとうの

みうとうべうとうとうみべうよ。その〜〜べうと
ものうとうひあうべひるべ。まあやううりうべ
ををうとうとうべめうとうと結。弁べうやうの白と
をみもうひうべ。うべうと命いうとつうくえ
えうと人をゆうくうべうとうべいうもうけ世よ
あうとうのうとうもうとうれべうとうとうべうら
をうとうべうべうとうとううとうと茶　細　茶のうりうとうと
れうとうと結。れいのひうう物結うべうとうと世よて。
細　茶の白　弁の尼のうとうう
うとうの白　うとうべうとうべうとうべうとうべうとうべうとうの
つべうとうとうべ吋べいうとうべうとうと紙いうとうと
茶うり結うんいうとうあうとうれうよう茶うとうべうとうと
うとうんうとうべ。えもいひやうべうとうとうとうう。

うとうをもうとうて　盃　弁慶
とううとうとうとうと一枝さけ
尼とうの　細　弁の尼の
慶と弁のうとうとうとうとう
阿吹盃三同
うとうのうれうとうえうう
三茶のうとう梅茶八茶
大茶のうとうとう

みうとうべうとうべうとうべうよ。その〜〜べうと
物色八茶の領結治
の近白うとう

いとつよけえて
細金のあり
池のねぬるえいとな
をへての世を
ろよをへての世ともう
つこもいつよ　細
をとをで
んといふ
ぐひろこと
ぐひろこと
弁
いつよをへてのびゆくいのちれてくみ
いつよをよとそうら
らあーくぐ
つをつよ
をとをへ
ど
ふとくいひ
うれど
すそれひ
くりてで
弁ぐ
ゆあ
わーま
細大
弁の
弁の
弁ぐ

作
ぬ
ぬ
ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

師今の世ひの法師のさまといふんとくびすとをとりくんさまざまの花を
幾わ来うちうさきと分やうに中宮の来より出給ひてもの旨宮の孫をうばいぐあんとこ宮法よてハを法のうとうけもあ
うこぞれまてびーるハ西の教上もあうずと

二条院へ

おんーつきうこりらぬさ西よ孟をくやくうらうきらすう屋づうりのうこりどよ
きうこのくしりる中にひ〇られく宮いつーうと
ひまうかつまーゆれいれ車のりうよこ
づくうせおてゆうーまうれたこり
らひうどおうぐさうどうりうくく女房のつ
かひ法ひまぐれんとぐめうせ結まうか
どうくえてていとあくまーげうり
いうどうりのうとみうとうこるれあり
うあのよつうくうぐまうまんいぐば
うけまうぐまうくうこるみうりと世の
人もうくうみくうこゆまうさうう中納言

芙

この〇ろう日くに
院三条宮を作り出を
時くう
式部ろうさかどうれいげ
うひも　お二条院三条院
経近うこ宮法ろうる
ーりうつるさ西と芙のゆ
うくて東うるまで
三条のうよかりもーう

三芙のうれーうさ物うう梅ーうう

うるうろや　細　万葉の歌
をうー引亜うこ河海こ
みくうりうりの秋月
まかうれとうーとこ

八三条のうよこのたよ日のゆうくうよわうう
法うんうとうて。このうろハ四ぐよおうーけく
うう法よ。この院ううさゆどうれいげうも
東のうこ
をうんーうて。東うくうまぐかーうた
なうるゆ前れんぐうりまりてあり
作うどうこうう四。ひうどうれうろよい
つうこりてうーまうかなうどうこう法みもうけい
うれうう西ーうつぶまく物みをれ
しうう海ーうくむれうーうつぶまく物みをれ
物みうーうーうーうくうひううどうれく

芙

うるうろやみ月のうこりうこようぐ海乃
まかうれどまあひうーゆとうぞいひてこ

[illegible]

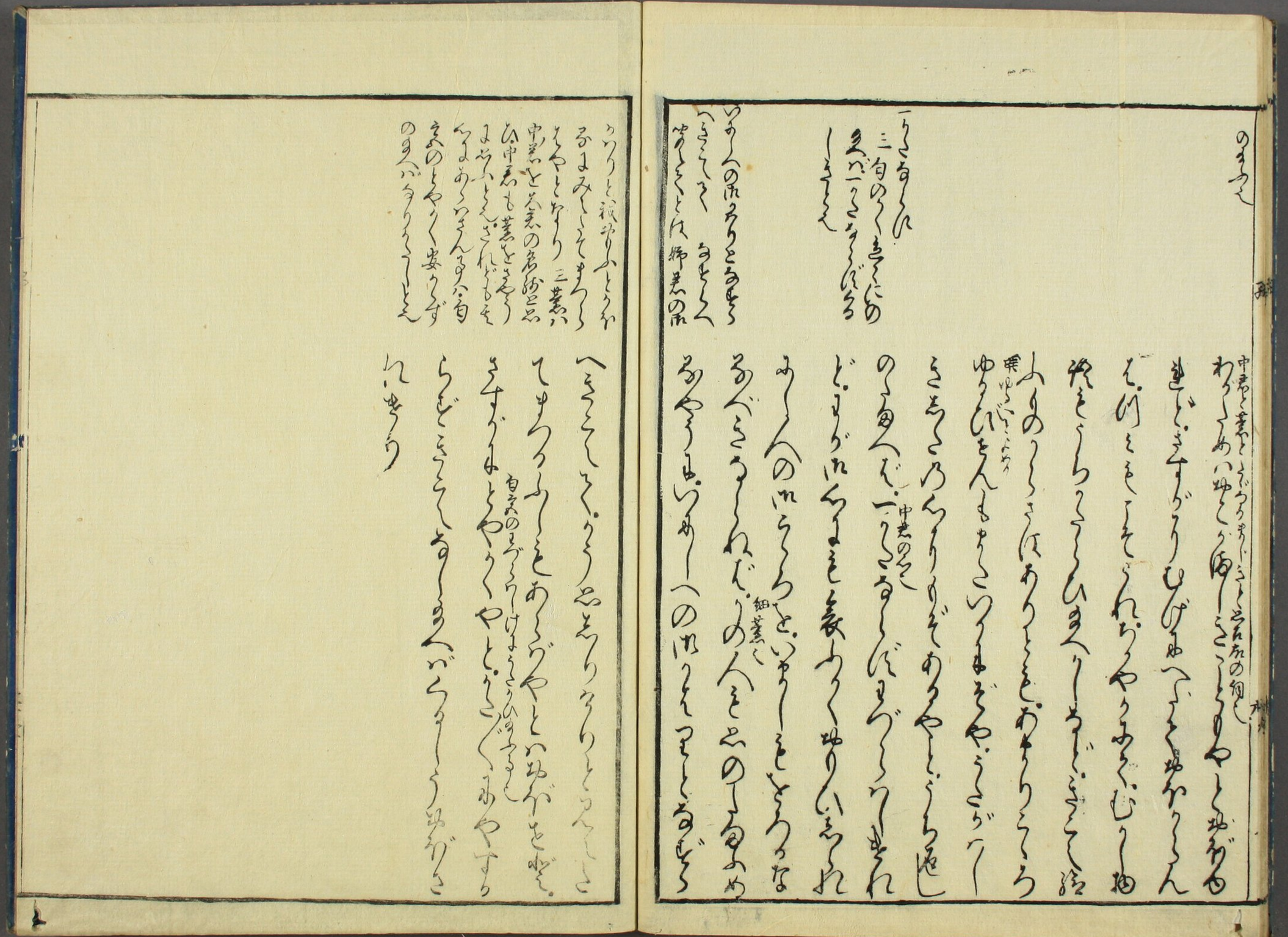
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世中うりつくしてのちのこぞ作りや紫
のうりつくしてのちのこぞ作りや紫
へのまだ花もさかぬ前に
しかりくも作られしとてうりなが
めくらの作られしうりげるる
のべて大葉のいとまきうりぞゆきうり
ばかりつるるうりぞゆきうり
くれの文をもてこしをかりうり
つけつくしてゆきうりゆきてもぞこつ
もう世代ぞうりぞ出るようつけくひさふ
りけのうり
ありよこと
ばそさうりうりとおぞうりのうりの
そうりぞいぐまうりうりんぐうりれ
つよりうりくしくかりてなりうりて

うりうりうりうりうりのうりのうりうりうりうり